

「特別支援教室及び通級による指導」
指導の充実のためのガイドブック
～実態把握に基づく自立活動の指導改善～

特別支援教室及び通級による指導を受ける児童・生徒一人一人の実態把握を的確に行い、指導内容を具体的に設定することで、自立活動の充実を目指しましょう！！

令和5年度 教育課題研究 特別支援教室及び通級による指導に関する研究（2年次）
— 発達段階を踏まえた自立活動の指導の充実 —

令和6年3月 東京都教職員研修センター

はじめに

東京都教育委員会では、発達障害等（自閉症、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害）のある児童・生徒に対する支援の充実を図るため、特別支援教室を公立の小・中学校（義務教育学校及び中等教育学校前期課程を含む。以下同じ。）に導入しました。小学校では平成 30 年度に全校への導入が完了し、中学校では令和 3 年度に全校への導入が完了しました。特別支援教室の利用者は、小学校での指導を開始した平成 28 年度から令和 3 年度の間約 2.5 倍となりました。

都立高等学校（中等教育学校後期課程を含む。以下同じ。）においては平成 30 年度にパイロット校を指定して通級による指導を開始し、令和 3 年度に全ての高等学校へ拡大しました。高等学校における通級による指導についても、利用者数の増加が見込まれています。

特別支援教室及び通級による指導では、一人一人の児童・生徒の障害による学習上又は生活上の困難に応じて指導目標及び指導内容を設定して指導を行うこととされています。指導に当たっては、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年度告示）第 7 章及び特別支援学校高等部学習指導要領（平成 31 年告示）第 6 章に示す自立活動の内容 6 区分 27 項目の中から、個々の児童・生徒に必要な項目を選定し、それらを相互に関連付け、具体的な指導内容を設定することが重要です。

そこで、一人一人に合わせた指導目標や年間指導計画、毎時の自立活動の授業を作っていくことに難しさを感じている教員の皆様のために、本ガイドブックを作成しました。児童・生徒への支援が一層充実し、児童・生徒の成長につながることを願っています。

令和 6 年 3 月

東京都教職員研修センター

目次

1	実態把握から始める自立活動の充実に向けた大まかな流れ	3
2	「チェックリスト」を活用しよう	4
3	実態把握から指導目標の設定へー指導すべき課題の抽出ー	5
4	指導内容の設定ガイド（小学生 A さんの場合）	6
5	指導内容の設定ガイド（中学生 B さんの場合）	8
6	指導内容の設定ガイド（高校生 C さんの場合）	10
7	研究協力校の自立活動に基づく事例集	12
8	切れ目ない支援の実現に向けて	13
9	参考資料	14

[下線のある項目](#)をクリックすると、そのページに移動します。

1 実態把握から始める自立活動の充実に向けた大まかな流れ

児童・生徒の困難さ

一方的なやり取りをしてしまう

思いを伝えられない

忘れ物が多い

障害から生じる困難さの一端

健康の保持

環境の把握

心理的な安定

身体の動き

人間関係の形成

コミュニケーション

要因・背景

(自立活動の内容6区分27項目を参考にする。)

〈実態把握〉

日々の観察や記録と共に、「読み書きチェックリスト」や「社会性・行動のチェックリスト」等を活用する。

参考：特別支援教室の運営ガイドライン
(教育庁都立学校教育部 特別支援教育課 令和3年3月)

〈実態把握の観点例〉

【行動の観察】

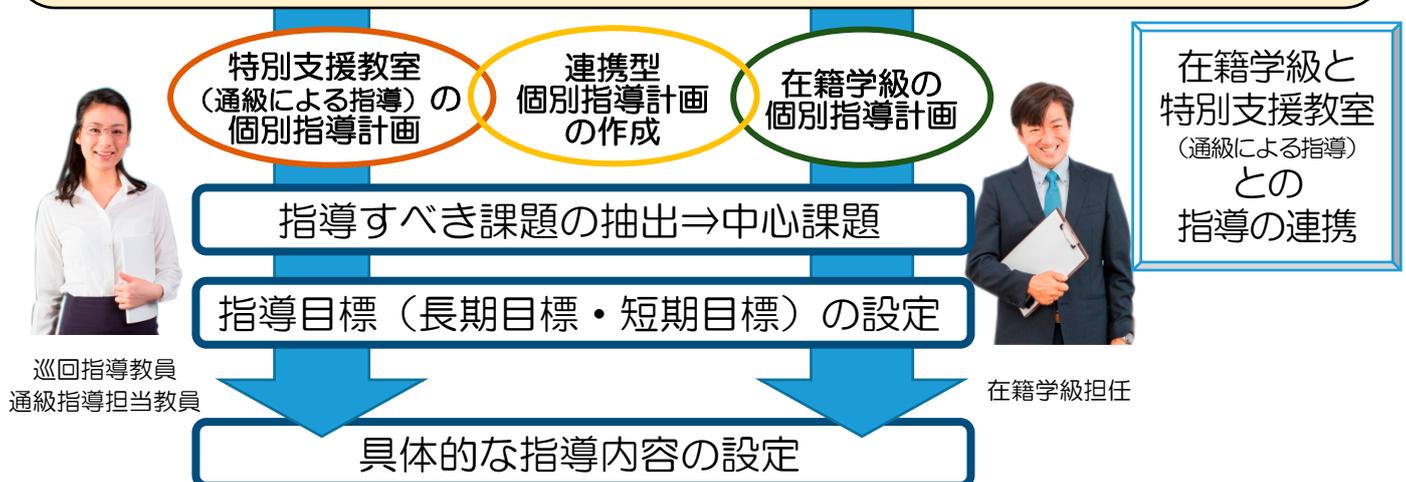
- ・子供の「強み」や「よさ」に目を向けて肯定的に捉える。
- ・行動特性や興味・関心等の「質的な情報」を捉える。

【チェックリスト等の活用】

- ・発達検査(WISC等)の結果と併せて、「学習と行動のチェックリスト」や「文字の読み書きチェックリスト」、「社会性・行動のチェックリスト」等を作成し、活用する。
- ・引継資料、指導記録、個別指導計画等を把握する。

【面接等の聞き取り】

- ・子供本人や保護者からの「願い」(〇〇ができるようになりたい等)を聞き取る。
- ・「願い」を整理し、「ニーズ」を導き出す。



連携型個別指導計画については、在籍学級ですでに作成されている学校生活支援シート(個別の教育支援計画)及び個別指導計画と、特別支援教室(通級による指導)で作成される個別指導計画に基づき、共通理解を図りながら作成します。

2 「チェックリスト」を活用しよう



特別支援教室（通級による指導）の担当になったのだけれど、指導を始めるにはまず何をすればいいの？

まずは、子供のことについて知ることから始めましょう。

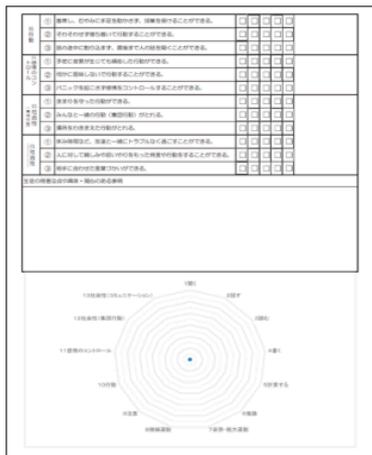
在籍学級と特別支援教室とが常に連携・協力しながら、特別な教育的支援が必要な子供に対する指導や支援の充実を図っていくことが重要です。

子供や保護者からの申し出の他に、前籍校や園からの引継ぎ、在籍学級の担任や教科担任等の「少し気になる」という「気付き」を出発点として、下のようなチェックリストを活用し実態・課題把握を行いましょう。

その際、よさや得意なことについても注目しましょう。



「学習と行動のチェックリスト」の作成と活用



【チェックリストを使用した教員の声】

- チェックリストを活用しながら、他の先生と情報の交換や共有ができる。
- チェックリストがあることで、特別支援教室と在籍学級間の相互で指導について、「こうしよう」という方向性を話すことができる。
- 指導内容を見直すとき、過去のチェックリストの結果と現状との比較によって成長や変容が把握できる。

的確な実態把握を行うために、「学習と行動のチェックリスト」の作成と活用を行いましょう。高等学校においては「学習と行動のチェックリスト（中学生用）」を参考にしてください。

一人の教員のみで作成するのではなく、児童・生徒に関わりのある複数の教員が作成に関わることにより、児童・生徒の困難さの全体像を多面的に把握することが重要です。

実態把握には発達検査（WISC 等）の結果も活用しましょう。

児童・生徒の実態に応じて、「文字の読み書きチェックリスト」や「社会性・行動のチェックリスト」、「『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント」等も併せて活用していきましょう。

社会性・行動のチェックリスト

これらのチェックリストは、東京都教職員研修センターのホームページからダウンロードできます。

https://www.kyoikukensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/bulletin/r5_seikal.html



3 実態把握から指導目標の設定へー指導すべき課題の抽出ー

指導目標の設定に当たっては、子供の認知面や行動面に留意しながら、子供のよさや得意なことを生かした、障害から生じる困難さによる「つまずき」の軽減に焦点を当てた目標の設定や、「学習の仕方」を身に付けるための指導目標の設定など、優先する指導内容を絞り込んでいきます。

その際、長期的な視点（概ね1年程度）で子供が達成可能な指導目標を設定するとともに、短期的な視点（学期毎等）で指導内容を段階的に取り上げ、具体的な個別指導計画を作成することが重要です。



実態把握から具体的な指導目標の設定の例

- ① **実態**：漢字や図形の問題が苦手で、落ち着きがない。
↓ ※自立活動の6区分27項目の内容を参考に、要因や背景となる課題を分析
- ② **指導すべき課題の抽出**：注意の集中・持続性、視覚による記憶など
自立活動の区分「4 環境の把握」から
(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
↓
- ③ **指導目標**：視覚から入った情報を思考の中で立体に置き換えていく力を高める。
↓
- ④ **具体的な指導内容**：
例) ホワイトボードに示された立体図を見て、机上の立体ブロックを組み立てる。

参考：特別支援教室の運営ガイドライン p.76～

(教育庁都立学校教育部特別支援教育課 令和3年3月)

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/primary_and_junior_high/special_class/files/guideline/03.pdf



子供の「実態把握」を基にして、困難を改善したり、克服したりするために必要な指導目標を考えるとということが分かりました。

では、**指導すべき課題**はどのように抽出するの？

「指導すべき課題の抽出」⇒中心的な課題

- ・優先順位を考えて課題をリストアップする。
必要性・緊急性・達成の可能性・成果への期待 等
- ・つまずきに対する指導のみを考えるのではなく、つまずきの原因を分析する。

原則の指導期間に……

「○○ができれば」
「○○が改善されたら」



学習や生活に主体的、意欲的に
取り組みやすくなる。

中心的な課題

学習指導要領解説には、実態把握から、自立活動の具体的な指導内容を設定するまでの例が13事例示されています。

参考：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編
(幼稚園・小学部・中学部) (平成30年3月) p.32～39. P.128～171

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_5.pdf



4 指導内容の設定ガイド（小学生Aさんの場合）

一方的なやりとりをしてしまうことがある
小学生Aさん



同じ子供についてでも、複数の教員で実態把握を行うと、チェックリスト等の各結果に相違や偏りが見られることが考えられます（例えば、学習集団、教科・科目の得意不得意、教員とのかかわり 等）。

異なる場面における子供の状態については、下のイメージのように関係する教員間で共有することが重要です。



＜複数の教職員の視点で実態を共有するイメージ＞

在籍学級担任

（よ さ）文章を読んだり、書いたりすることが得意。
（困難さ）グループ活動の際に、自分の思いだけを一方的に伝えてしまう。

学年主任

（よ さ）元気よく挨拶できる。
（困難さ）自分から謝ることが困難。

養護教諭

（よ さ）イラストが好きで、絵を書いて話をしてくれる。
（困難さ）自分が言いたいことだけを言う。

巡回指導教員

（よ さ）グループでの活動は好き。
（困難さ）小集団活動で協力して課題に取り組むことが困難。



校内委員会での情報共有による実態把握

このように複数の視点から子供の情報を共有・交換することで、困難さを多面的に把握し、課題を抽出することができます。



<実態把握から課題設定と指導内容の決定までの流れ>

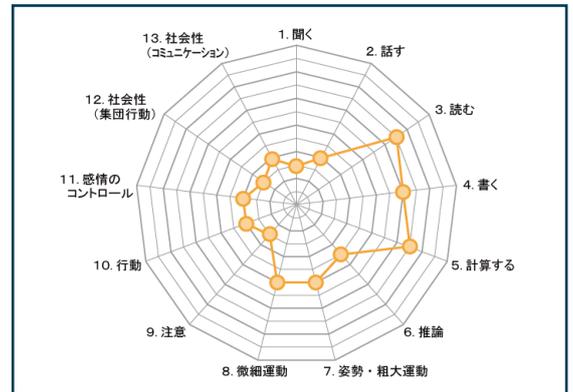
STEP① 実態把握

日々の観察や記録とともに、発達検査の結果や「チェックリスト」等を活用しましょう。

Aさんの様子

- 困難さ：思いが強く、一方的に話してしまう。
- 困難さ：自分と異なる意見に関しては、受け入れられない。
- よ さ：難しい文章を読んだり、計算したりすることが得意。

Aさんの「学習と行動のチェックリスト」



STEP② 指導すべき課題の抽出

複数の教員で収集した情報を自立活動の内容6区分27項目に即して整理していきましょう。



一方的に話してしまうのは、『コミュニケーション』に関連がありそうですね。

自分と異なる意見を受け入れられないのは、他者の気持ちを読み取ることが難しいからじゃないかな。これは『人間関係の形成』に該当しそうですね。



⇒校内委員会では、Aさんの困難さを自立活動の内容6区分27項目に即して次のように整理しました。

6 コミュニケーション

- ・相手や状況に応じて、適切なコミュニケーションを取ることが難しい。

3 人間関係の形成

- ・他人の気持ちを読み取ることが難しい。
- ・自分の得意なこと、不得意なこと、行動の理解が難しい。

STEP③ 中心的な課題の設定

原則の指導期間に……

(困難さ)相手の気持ちを想像し、自分の思いや考えを適切に伝えることが難しい。



(中心的な課題)相手の話を聞いた上で、自分の思いや考えを伝えることができたなら



学習や生活に主体的、意欲的に取り組みやすくなる。

STEP④ 具体的な目標と指導内容の設定

- 《長期目標》・相手の話を聞いた上で、自分の思いや考えを伝えることができる。
- 《短期目標》・相手の表情を見ながら、話を聞くことができる。
 - ・相手の話を聞いた上で、自分のことを話すことができる。
- 《具体的な指導》・「そうだね」「わかった」など、受容する言葉を活用する方法を知る。

5 指導内容の設定ガイド（中学生 B さんの場合）

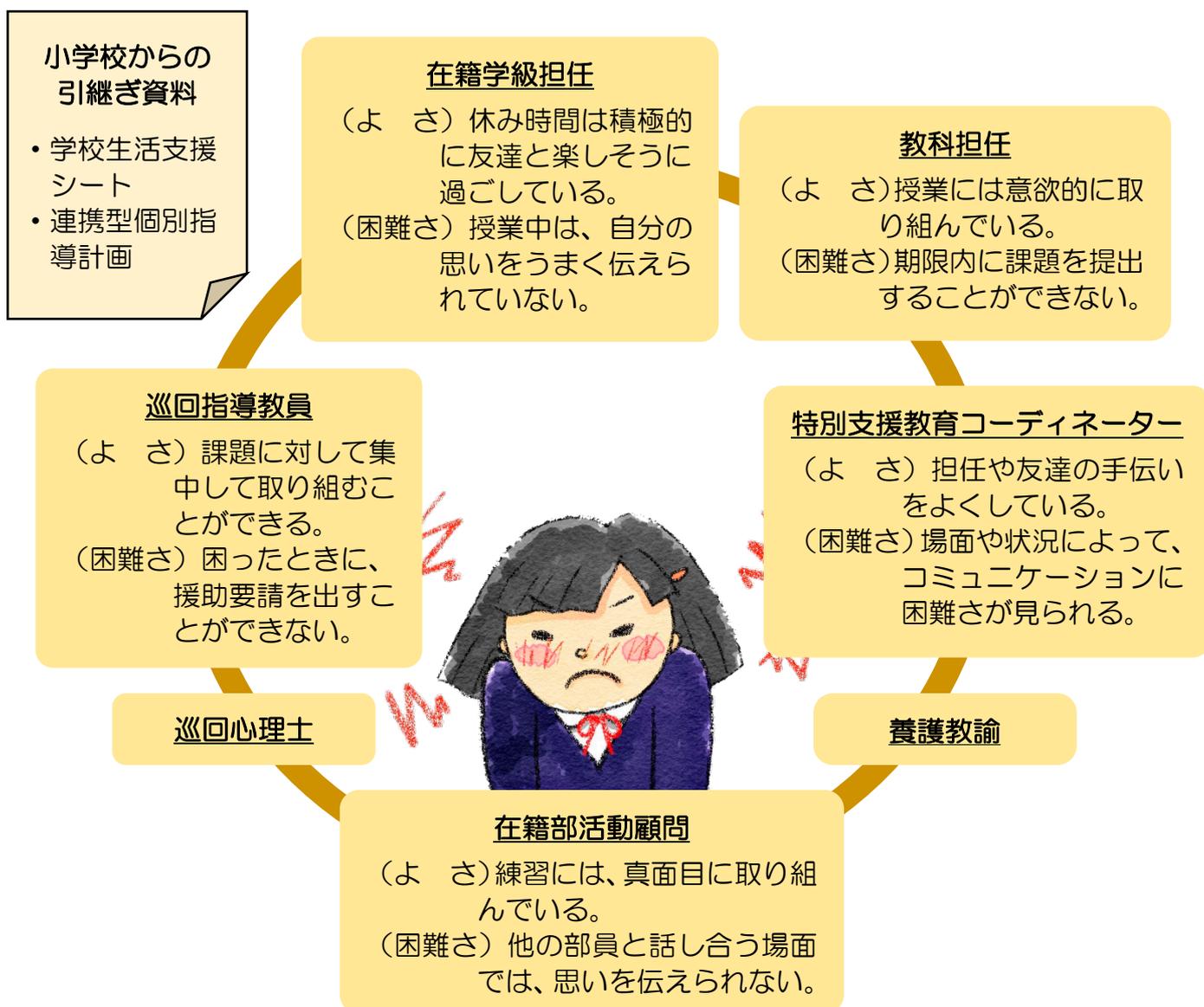
自分の思いを言葉や文章で表現することが難しい
中学生 B さん



中学校における特別支援教室での自立活動の指導内容を考える際には、〈教科担任制に係る関係教職員との連携〉と〈小学校から中学校への指導の接続〉が重要となります。小学校から引き継がれた「個別の教育支援計画（学校生活支援シート）」や連携型個別指導計画を確認しながら、小学校での自立活動の指導の成果を生かして、指導内容を考えていきましょう。



<複数の教職員の視点で実態を共有するイメージ>



＜実態把握から課題設定と指導内容の決定までの流れ＞

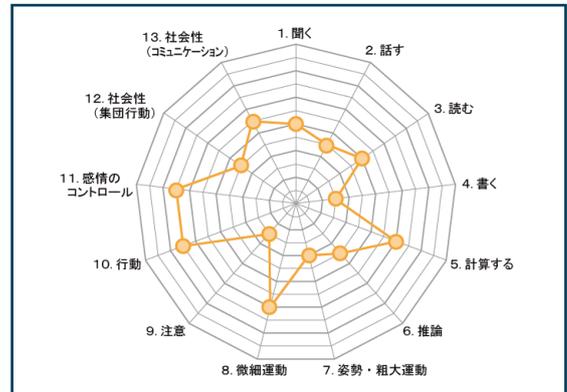
STEP① 実態把握

複数の教員から、障害の状態や発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる課題等の情報収集を行いましょ。

Bさんの様子

- 困難さ：人に伝えようとする意識が少なく、あまり関心がない。
- 困難さ：困ったときに、援助要請を出すことができない。
- よ さ：マイペースで友達とのトラブルもない。

Bさんの「学習と行動のチェックリスト」



STEP② 指導すべき課題の抽出

複数の教員で収集した情報を自立活動の内容6区分 27 項目に即して整理していきましょう。



他者への関心を示すことができないのは、『人間関係の形成』に関連がありそうですね。

援助要請を出すことができないのは、『コミュニケーション』にあたりそうですね。



⇒校内委員会では、Bさんの困難さを自立活動の内容6区分 27 項目に即して次のように整理しました。

3 人間関係の形成

- 他者との関わり方がわからない。また、関わる方法が十分に身に付いていない。

6 コミュニケーション

- 場面や状況に応じたコミュニケーションの取り方がわからない。また、相手の意図を受け止めながら、自分の考えを伝えることが難しい。

STEP③ 中心的な課題の設定

原則の指導期間に……

(困難さ) 他者と関わる方法が十分身に付いておらず、場面や状況に応じたコミュニケーションの取り方がわからない。

(中心的な課題) 他者と関わる方法が身に付き、場面や状況に応じたコミュニケーションが取れるようになったら

学習や生活に主体的、意欲的に取り組みやすくなる。

STEP④ 具体的な目標と指導内容の設定

- 《長期目標》・人と関わることの楽しさや心地よさを知り、適切なコミュニケーションスキルを学ぶ。
- 《短期目標》・コミュニケーションスキルを意識しながら、自分の考えや気持ちを端的に表現する。
- 《具体的な指導》・ソーシャルスキルトレーニングを通して、伝え方を理解し、生かせるようにする。

6 指導内容の設定ガイド（高校生 C さんの場合）

宿題などの提出物の期限を守ることが難しい
高校生 C さん



< 教員間で生徒の「少し気になる」を共有する >

特別な教育的支援が必要かどうかは、本人や保護者からの申出の他、中学校からの引継ぎや、ホームルーム担任や教科担任等の「少し気になる」という「気付き」等が出発点になります。

ホームルーム担任等による「気付き」の例

- ・入学後、宿題の提出期限が守られていないことについて、複数の教科担任からホームルーム担任に連絡が入った。

⇒分掌会議、ケース会議等で「気付き」について情報交換します。情報交換することで、生徒が苦手としていることばかりに教師が着目するのではなく、得意なことやできることをきっかけに授業を進めていくことができます。



中学校からの引継ぎ資料

- ・学校生活支援シート
- ・連携型個別指導計画

ホームルーム担任

(よ さ) 素直で明るい。
(困難さ) 落ち着きがなく集中できていないときがあるように見える。

教科担任

(よ さ) 数学の授業中は、意欲的に取り組んでいる。
(困難さ) 学習課題を提出しない。

部活動顧問

(よ さ) 元気よく活動している。
(困難さ) 保護者への配布物を手渡すことが困難である。



養護教諭

(よ さ) よく話をしてくれる。
(困難さ) 1校時の授業中に保健室に来ることが多く、「よく眠れなかった」と話すことがある。

特別支援教育に関する校内委員会開催から通級による指導開始まで

○ホームルーム担任から相談を受けた特別支援教育コーディネーターは、管理職に相談し、特別支援教育に関する委員会を開催し、巡回相談員から、個別の支援が必要であるという助言を得た。

⇒ホームルーム担任は、巡回相談員の助言の下、個別指導計画と学校生活支援シートを作成した。

⇒保護者や生徒との面談を重ね、外部機関と連携を図って、通級による指導を開始することになった。

<実態把握から課題設定と指導内容の決定までの流れ>

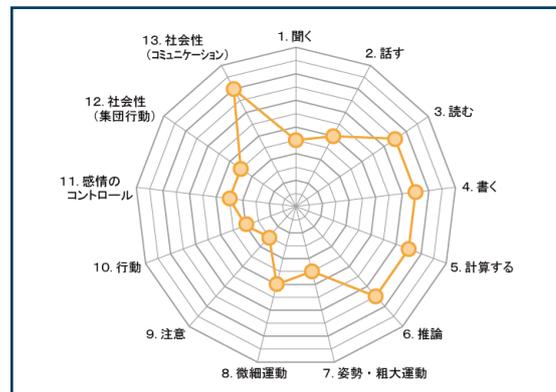
STEP① 実態把握

ケース会議等で、障害の状態や発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる課題等の情報収集を行いましょ。中学校での様子について、出身中学校と連絡を取ることも重要です。

「学習と行動のチェックリスト」の他に、「社会性・行動のチェックリスト」などを活用して中心的な課題の抽出を複数の教員で行うと効果的です。

Cさんの

「学習と行動のチェックリスト



Cさんの様子

困難さ：宿題などの提出物の期限を守ることが難しい。

困難さ：授業の場面では、落ち着きがなく集中できていないときがあるように見える。

よ さ：部活動の場面では、元気よく活動し、素直にコミュニケーションをとることができる。

STEP② 指導すべき課題の抽出

複数の教員で収集した情報を自立活動の内容6区分27項目に即して整理していきましょう。



困難さを考えると、『環境の把握』になりそうですね。

生徒のよさを生かすのであれば、『4環境の把握』(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関することを中心に指導していきましょう。



面談では保護者が「宿題の提出について支援してくれる放課後デイサービスを活用する」と話したけれど、生徒本人から支援を申し出ることができるようになると卒業後の進学や就職にも役立つと思います。

STEP③ 中心的な課題の設定

原則の指導期間に……

(困難さ)自ら計画を立てて、自主的に学習していくことが難しい。

(中心的な課題) 場面や状況に応じた対応ができ、すべきことを計画的に実行する力がついたら

学習や生活に主体的、意欲的に取り組みやすくなる。

STEP④ 具体的な目標と指導内容の設定

《長期目標》・予定どおり計画が進まなかった際に、選択・活用ができる代替手段を身に付ける。

《短期目標》・予定どおりできたことをスケジュール帳に記載し、自信を高める。

《具体的な指導》・個別指導でスケジュール帳と付箋紙を活用し、予定を立てる。

・宿題の予定を放課後デイサービスの支援員に自分から伝えることで、宿題の実施状況を把握できるようにする。

7 研究協力校の自立活動に基づく事例集

各自の特性に応じた指導の充実のために、「コンテンツ（教材や題材など指導の内容、中身）」だけでなく「プロセス（課程や手順）」の観点にも着目してみましょう。



「学習に集中できない」という共通の困難さがある
DさんとEさんの場合



状況
・
実態

【Dさん】よさや困難さ

- ・プリント学習などに集中することが難しい
- ・競争することを好む
- ・「タイムを計ってやれば頑張れるかもしれません」と話している



【Eさん】よさや困難さ

- ・プリント学習などに集中することが難しい
- ・一人で静かな場所で遊ぶことを好む
- ・「周りがうるさいと集中できないかもしれません」と話している



各自の「指導すべき課題」を自立活動の内容6区分27項目で整理すると……

【Dさん】「2 心理的な安定」
(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

【Eさん】「4 環境の把握」
(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

指導
・
支援

コンテンツ（教材）



は共通

【Dさん】特性に応じたプロセス

タイマーを使って時間を意識して学習に集中できるようにする。



【Eさん】特性に応じたプロセス

静かな環境を用意して学習に集中できるようにする。



同じコンテンツでも、プロセスを変えることで、児童・生徒一人一人の困難さに対応する指導が可能になるのですね！



このように、自立活動の内容6区分27項目の考え方で「プロセス」を整理して指導内容を設定することが効果的であるといえます。このガイドの後半では、指導事例を全部で10事例紹介しています。

※コンテンツとプロセスによる学習内容設定については、東京都教職員研修センターにおける東京学芸大学教職大学校准教授の増田謙太郎先生の講義内容を参考としました。

8 切れ目ない支援の実現に向けて

校種間の引継ぎ

※ここでは、「個別の教育支援計画」及び「学校生活支援シート」並びに「個別指導計画」を指して「学校生活支援シート等」と表記しています。

就学から社会参加に至るまでの切れ目ない支援が実現するように、校種間で引継ぎを行いましょよう。

学校生活支援シート等を活用した引継ぎのイメージ



学校生活支援シート等の活用

<小学校から中学校への指導の接続について>

保護者の了解を得ながら、学校生活支援シート等の活用や学校間の連携を密にすることにより 確実に情報を引き継ぐことが重要です。

また、特別支援教室での指導を小学校から引き続いて受けることが必要な生徒については、中学校入学前から児童の課題を把握し、当該生徒の教育課程や指導計画に反映しましょう。

<中学校から高等学校への指導の接続について>

適切に指導の接続がなされるよう、生徒本人や保護者の意向を十分に踏まえた上で、進学先の高等学校等と、情報の共有や引継ぎ等を適切に行うことが重要です。

高等学校等教員を対象に行った調査で「要支援生徒に関することで、中学校から提供してほしい情報は何か」と質問したところ、右の結果となりました。この結果から、学校生活支援シート等を活用して引継ぎを行うことが望ましいと言えます。

東京都教育委員会では、「都立学校への情報提供について」のリーフレット(左図)を作成・配布しています。卒業にあたり生徒・保護者に学校生活支援シート等を渡す際は、このリーフレットを添えて進学先等に学校生活支援シート等を提供することを依頼しましょう。

また、中学校側は、高等学校から中学校への情報の提供の申し出があった場合に適切に情報の提供ができるよう、連絡する窓口を明らかにすることや生徒の情報について次年度に引継ぎを行うことが重要です。

質問 要支援生徒に関することで、中学校から提供してほしい情報は何か。(高等学校教員対象) n = 41

- | | | |
|---|--------------------------|-----|
| 1 | 学習又は生活上の配慮・支援する内容 | 40人 |
| 2 | 関係外部機関 | 39人 |
| 3 | 支援のポイント・支援方法 | 36人 |
| 4 | 要支援生徒の強み・得意なこと | 28人 |
| 5 | 当該生徒の高等学校入学後、連絡の取れる中学校教員 | 26人 |

「都立学校への情報提供について」(教育庁都立学校教育部特別支援教育課 令和5年)
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/high_school/files/special_support_resource_rooms/provided_r5.pdf



特別支援教室や通級による指導などで指導を受けたことがある
 お子さまの保護者の皆様へ

お子さまのこれまでの支援などの状況を進学先の都立高校にお伝えください

中学校で受け付けても特別な支援に必要でない場合は、進学先の都立高校に
 お知らせいただくことで、進学先の学校と一緒に指導での工夫などを検討できます。

高校段階では、進学や就職に向け、お子さま自身が決めることも多くあります。
 目指して進んでいくため、お子さま自身の学習の特性を把握し、高校生活に合わせたコミュニケーションの取合いができるようになるなどために、様々な面で自ら支援願望できるようにすることは、大変重要です。
 (中学校までの区議の状況などを進学先に連絡し、高校段階での指導における配慮や工夫などにつなげることがあります。)

公立中学校や、私立中高一貫校への進学される方へ
 これまでの支援の情報を共有することも大切です。

中学校では、誰とどの授業をどの科目で受けたのか、どの科目でどの程度
 関与していたのか、どのような状況で学習していたのか、どのような
 配慮が必要なのか、お子さまの学習の状況や、進学先の学校や
 高校の状況について、ご質問の状況に合わせて進学先の都立高校に伝えていただく
 ことが重要です。

進学先の学校と進学先の学校と、国語、英語に関する情報を共有することも効果的です。ご質問
 に応じて、必要に応じて、進学先の学校や、進学先の学校や、進学先の学校や、進学先の学校
 にご連絡ください。

東京都教育委員会

9 参考資料

特別支援教育・自立活動全般について（国）

- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
文部科学省 平成 30 年 3 月
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_5.pdf
- ・初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド
文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 令和 2 年 3 月
<https://www.mext.go.jp/tsukyu-guide/index.html>
- ・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
<https://www.nise.go.jp/nc/>



自立活動の指導について（東京都教育委員会）

- ・特別支援学級・通級による指導 教育課程編成の手引 教育庁指導部特別支援教育指導課
令和 3 年 3 月
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/special_needs_education/teaching_program.html



教育庁指導部特別支援教育指導課が作成した資料

- ・障害のある児童・生徒の学びを支える特別支援教育の充実 令和 3 年 3 月
- ・「読めた」「わかった」「できた」読み書きアセスメント 平成 30 年 3 月
- ・ICT機器の活用事例集 平成 29 年 3 月
- ・高等学校における発達障害のある生徒への指導・支援
～学校・学級不適合を予防するための指導・支援のポイント～ 平成 29 年 3 月
- ・通常の学級における個別指導 平成 29 年 3 月
- ・読み書きに障害のある児童・生徒の指導の充実について 平成 27 年 3 月 他
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/special_needs_education/guideline.html



教育庁都立学校教育部特別支援教育課が作成した資料

- ・特別支援教室の運営ガイドライン 令和 3 年 3 月
- ・小学校特別支援教室 実践事例集 平成 30 年 5 月
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/primary_and_junior_high/special_class/
- ・小・中学校特別支援教育 指導事例等検索サイト
<https://www.tokushi-case.metro.tokyo.lg.jp/>



東京都教育庁教職員研修センターが作成した資料

- ・特別支援教室と在籍学級とのよりよい連携の構築について 平成 30 年 3 月
https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/O9seika/reports/files/bulletin/h29/materials/h29_17_05.pdf
- ・Be a good Teacher! -学びの動画集-
<https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/O8ojit/help-movie/index.html>
- ・特別支援教育 研修資料「全ての学校における特別支援教育の推進」(★)
<https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/staff/O5senmon/files/kenshutxt.pdf>
- ・教員お助けページ (★)
https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/staff/kyoin_help/index.html



※ 語尾に (★) があるサイトは、マイ・キャリア・ノートにログインして御覧ください。

<所員> 所長 藤井 大輔
 研修部長 栗原 健
 教育開発課長 渡辺 浩一
 統括指導主事 重末 祐介
 指導主事 石津 あや
 指導主事 塚原 雄太
 教授 岩田 訓

<講師> 東京学芸大学教職大学院 准教授 増田 謙太郎

<教員研究生> 葛飾区立西亀有小学校 主任教諭 伊藤 陽平
 葛飾区立東金町小学校 主幹教諭 堀口 麻衣
 東京都立小山台高等学校 主任教諭 坂田 匡史

<研究協力校> 世田谷区立尾山台小学校 校長 小田 正弥
 八王子市立第二小学校 校長 土屋 栄二
 国分寺市立第一小学校 校長 出町 桜一郎
 国立市立国立第六小学校 校長 小菅 和子
 福生市立福生第五小学校 校長 泉田 巧人
 三鷹市立第二中学校 校長 青木 睦
 都立荻窪高等学校 校長 馬飼野 光一
 都立町田総合高等学校 校長 後藤 洋士
 都立秋留台高等学校 統括校長 中村 勝徳
 都立中野特別支援学校 校長 和田 慎也

所属や役職は令和6年3月現在

「特別支援教室及び通級による指導」指導の充実のためのガイドブック
～実態把握に基づく自立活動の指導改善～

令和6年3月 発行

編集・発行 東京都教職員研修センター研修部教育開発課

所在地 〒113-0033 東京都文京区本郷一丁目3番3号

電話 03(5802)0319